

思いやりを育む実践活動

—中学生を対象とした大学生によるデートDV予防教育の学習効果—

下 山 恵 子

要旨

本研究の目的は、中学生を対象とした大学生によるデートDV予防教育の学習効果を検討することであった。中学2年生202名を対象に、事前事後にデートDV理解度アンケートを、事後に記述式のアンケートを実施した。その結果、学習効果は確認された。中学生は、デートDVという言葉を知り、身近な問題としてデートDVを捉えた。そして互いに尊重し合える関係を築くことの重要性を知り、解決策を得、仲間を大切にサポートする意識をもつことなど、多くの知識を得たことが示された。また年齢の近い大学生が実施したことにより、中学生はデートDVへの恐怖感を抱くことなく学べ、大学生においては、中学生からの感謝の言葉により、貢献感を味わう互いにポジティブな効果を得る機会となった。その一方で、中学生において、背負うべき範囲を超えた責任を負おうとする誤った認識が、既に形成されていることも明らかとなった。そのことから、今後、早期の段階から、デートDVについての予防教育を浸透させていく必要性についても示した。

キーワード

デートDV、予防教育、大学生

1. 目的

ドメスティック・バイオレンス (Domestic Violence : 以下、DV) とは、「配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力」という意味で使用されることが多く、身体的、精神的、性的、社会的、経済的暴力のことをいう。

「デートDV」は、山口(2003)が、「交際中の若いカップルの間に起こるDV」として取り上げ、現在では、「パートナーなど親密な関係にある者の間でおこる暴力」として、一般的に認知されるようになってきている。

内閣府男女共同参画局(2018)による「男女間における暴力に関する調査」では、交際相手から何らかの被害を受けたことがある人において、「自分に自信がなくなった」、「夜、眠れなくなった」、「人づきあいがいまぐさなくなった」などといった影響が

出ていることが報告され、深刻な状況であることが浮き彫りとなった。また交際相手からの暴力の相談経験について、「相談した」は55.9%（女性61.8%・男性43.4%）、相談先をみると「友人・知人に相談した」47.4%（女性53.1%・男性35.4%）がもっとも多かったことが報告されている。このことから、仲間の存在が支援する上で、貴重であるといえる。仲間支援については、欧米で約50年前に方法論が考案され（9）、福祉領域や教育分野など多岐にわたり実践され、知見が提出されている。例えば WHO（1992）では、若者と同年代である「ピアによる性教育」が効果的であるとの見解を示している。ピア・サポートの性教育における支援の直接的効果として、高村（1999）は、性に対する正しい知識が高まったこと、明るく性を捉えられるようになったこと、及び避妊も含めた賢明な性の意思決定ができるようになったことをあげている。さらに副次的に、将来の人生設計を考え始める傾向についても指摘している。

そこで本研究は、中学生を対象とした大学生によるピア・サポート活動の学習効果について検討することを目的とする。

2. 方法

学習効果を検討するため、デート DV の理解度アンケートを作成し（以下デート DV 理解度アンケート）、予防教育の最初と最後に参加した中学生に実施した。さらに授業の最後に、より具体的な効果を検討できるよう、授業で感じたこと、気づいたこと、大学生に伝えたいことについて記述式のアンケートを求めた。

1) 対象者

関西地区の公立中学校 2 年生 6 クラス 202 名のうち、事前事後のデート DV 理解度アンケートでは、欠損値を省いた 186 名を、テキストデータによる分析では、記載のあった 195 名を対象とした。

2) 手続き

予防教育の準備として、ピア・サポート・コーディネーター 4 名、ピア・サポート・トレーナー 1 名の計 5 名により、参加学生を対象に 2 日間の事前研修を実施した (Table 1)。

予防教育は2016年3月に、5・6時間目（各50分間：Table 2）に実施され、1クラスに2名の大学生が担当した。

Table 1：予防教育事前研修	
<p><第1日目></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめまして（自己紹介）：10分 2. 出会いのワーク：20分 3. 講義：2時間 <ul style="list-style-type: none"> • 「素敵な関係づくりって何？」 • 「デートDVって何？」（基礎理解編） • 自分はこう思う 4. 昼食休憩：1時間 5. チームづくり（分担・日程調整）：30分 6. 自分にとっての「デートDV」こう思う：1時間 7. 模擬授業（昨年経験者による）：1時間 8. 授業への疑問点：1時間 <ul style="list-style-type: none"> • ねらい・内容・流れの確認 	
<p><第2日目></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業プランづくり：2時間 2. 昼食休憩：1時間 3. 授業プレゼン：1時間 4. 課題と対応、授業のイメージ：2時間 <ul style="list-style-type: none"> • どんなことが起こる？ • どう対応する 5. まとめ：30分 	

Table 2：大学生による予防教育の内容（50分×2）	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介：5分 2. 授業前：デートDV理解度アンケート実施（5分） 3. デートDVを学ぶ：40分 <ul style="list-style-type: none"> • 暴力ってなんだろう：映像＋コメント（5分×4） <ul style="list-style-type: none"> ■ 携帯電話編 ■ 言葉編 ■ 経済編 ■ 性問題編 • デートDVについて：学習資料（20分） <ul style="list-style-type: none"> ■ 暴力とは ■ 暴力のサイクルとは ■ デートDVの被害状況 	
休 憩	

- デート DV の相談をされたらどうする？
- ロールプレイ (5分×2) + ワークシート (5分×2)
 - 被害者編
 - 相談編
- 素敵な関係を作るために：ワークシート (5分)
 - グループワーク (5分)
 - 全体 (5分)
- 4. まとめ：15分
 - 授業後：デート DV 理解度アンケート実施
 - アンケートの解説
 - 大学生からのメッセージ
 - 感想：記述式アンケート
授業で感じたこと
気づいたこと
大学生に伝えたいことについて

3) 効果測定

学習効果の測定には、「デート DV 理解度アンケート」（9項目2件法）をそれぞれクラス単位で実施し、結果については各項目得点に関し、統計的処理 (t 検定) により有意差を検討した。

さらに学習効果について、具体的な内容を把握するため、中学生の感想を Excel に入力しデータベース化し、テキスト型（文章型）データを統計的に分析するためのフリーソフトウェアである KH coder（1）を用いて分析を行った。

「KH coder」は、データの要約を行う段階で、恣意的なものとなりうる「手作業」を取り除き、分析者の持つ理論や予断によるバイアスを極力排除し、多変量解析によりデータ全体を要約・提示することと、コーディング規則を公開するという手順を踏むことによって、操作化における自由と客観性の両立を可能にしている（1，2）。分析結果は、抽出語（複数回出現する語）の出現数だけでなく、抽出語の共起関係を示す「共起ネットワーク」も得ることができる。

具体的手順としては、得られたテキストデータの全体像を探るため、形態素分析を実施し、頻出語の出現数を確認した。頻出上位語からは、中学生の観点や関心を把握することができた。その後、語の中心性やまとまりの強弱を検討するため、共起ネットワーク分析を行った。頻出語を検討することにより、予防教育を受けた中学生のデート DV についての理解度や視点、授業効果についても検討した。その上で共起ネットワーク分析により、出現語の関係性や文脈についても推測をした。

3. 結果

1) 「デートDV理解度アンケート」事前事後の比較

学習効果を検討するため、デートDV理解度アンケート9項目の事前と事後の結果に関して対応のある t 検定を行った。その結果、問1「デートDVとは、交際相手とのデートの方法を教えるビデオの事です。」($t=3.07$, $p<0.01$)、問2「もしデートで暴力を振るわれたら、即、別れるはずだと思う。」($t=9.03$, $p<0.001$)、問3「暴力をふるうのは、相手を嫌いになったときだと思う。」($t=5.72$, $p<0.001$)、問4「かわいくない、気がきかない、いうことをきかない、など、暴力を振るわれる方にも、悪いところがある。」($t=4.71$, $p<0.001$)、問5「『ダメなやつ』とか『バカ』とか、ひどい言葉で傷つけても、直接たたいたりしなければ暴力じゃないと思う。」($t=4.87$, $p<0.001$)、問6「暴力をふるわれたあと、あやまつたら、許してあげたらいいと思う。」($t=2.83$, $p<0.01$)、問7「他の人と話したり、出かけたりするのを、つきあっている相手が嫌がって制限するのは好きな証拠だからしかたがないと思う。」($t=5.60$, $p<0.01$)、問9「交際相手から被害を受けたことのある人の割合は、女性で5人に1人、男性で10人に1人の割合である。」($t=8.97$, $p<0.001$)に有意な差がみられた。一方、問8「デートDVは、相手を怒らせないように工夫すれば、なくすことができると思う。」においては、有意な差はみられなかった。それぞれの因子得点の平均値及び標準偏差、 t 検定の結果を、Table 3 に示した。

Table 3 : 事前事後の各因子得点の平均値及び標準偏差、 t 検定結果

	事前		事後		t 値	有意差
	平均	SD	平均	SD		
項目1	.15	.36	.05	.02	3.07	**
項目2	.75	.44	.40	.49	9.03	***
項目3	.23	.42	.05	.23	5.72	***
項目4	.24	.43	.10	.30	4.71	***
項目5	.15	.35	.02	.15	4.87	***
項目6	.27	.45	.17	.38	2.83	**
項目7	.23	.42	.05	.23	5.60	***
項目8	.38	.49	.39	.49	-0.24	n.s.
項目9	.57	.50	.92	.27	-8.97	***

n.s. : 非有意、** : $p<0.01$ 、*** $p<0.001$

2) 抽出語の出現数

中学生195名の感想を分析対象とした。「KH coder」を用いて前処理を実施した結果、316の段落、363の文が確認された。

総抽出語数(分析対象ファイルに含まれる全ての語の延べ数)は6129語、異なり語数(何種類の語が含まれていたかを示す数)は590語であった。このうち分析に使用される語として2297語、異なり語数425語が抽出された。これらの頻出語のうち上位20語とその出現頻度をTable 4に示した。「思う」(173回)の出現回数が突出しており、「デートDV」(81回)、「自分」(49回)、「授業」(44回)、「分かる」(43回)、「ありがとう」(42回)、「人」(41回)と続き、「今日」(35回)、「相手」(34回)、「DV」(33回)、「気持ち」(30回)、「相談」(30回)、「知る」(30回)、「暴力」(30回)、「友だち」(27回)、「考える」(25回)、「受ける」(22回)「言う」(18回)、「身近」(18回)、「大切」(17回)まで、上位20位は173～17回の範囲で出現が確認された。

Table 4：自由記述に記載された抽出上位20語

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1.	思う	173	11.	気持ち	30
2.	デートDV	81	11.	相談	30
3.	自分	49	11.	知る	30
4.	授業	44	11.	暴力	30
5.	分かる	43	15.	友だち	27
6.	ありがとう	42	16.	考える	25
7.	人	41	17.	受ける	22
8.	今日	35	18.	言う	18
9.	相手	34	19.	身近	18
10.	DV	33	20.	大切	17

3) 共起性

出現パターンの類似する語(共起の程度が強い語)を線で結んだ「共起ネットワーク」をFigure 1に示した。分析にあたり、出現回数による語の取捨選択は最小出現回数を「5」に設定し、描画する共起関係の絞込みにおいては描画数を「60」に設定した。共起ネットワークでは、強い共起関係ほど太い線で、出現回数の多い語ほど大きい円で描画される。また色の濃淡は「媒介中心性」(各語がネットワーク構造の中でどの

①「思う」を中心に

「思う」を中心に「デート DV」、「知る」、「知れる」、「良い」、「分かる」、「身近」、「関係」、「全然」、「起こる」の10語で構成されていた。「KH coder」の「KWIC コンコーダンス」(Key Words in Context)を用い、分析対象ファイル内で抽出度がどのように用いられているか確認してみると、「デート DVは聞いたことはあったけど意味は知らなくて、今回の授業で知れてよかったです。」「デート DVは全然関係ないことだと思っていたけど、この授業を受けて、案外身近で起こるものなんだと思った。」「デート DVについてよく分かった。「今日の授業でいろいろ自分が分からないことも、いっぱい知れたので、今日はすごく良かったと思いました。」などの記述があった (Table 5)。

②「自分」を中心に

「自分」を中心に、「伝える」、「言う」、「意見」、「気」、「言葉」「暴力」「傷つける」、「人」の9語で構成されていた。上記と同じく「KH coder」の「KWIC コンコーダンス」を用い、分析対象ファイル内で抽出度がどのように用いられているか確認してみると、「自分の気持ちをきちんと伝えることが大切なんだなあと思いました。」「やっぱり人の気持ちを考えて、また自分の気持ちを伝えることが、みんなが傷つけない方法なんだと思いました。」「まずは相手のことを考えて、言ったり行動しなくてはならなかったり、自分の意見を相手にきちんと伝えることも大事なんだと分かりました。」「今日の授業で、デート DV は自分自身が少し気をつけて、相手に伝えることが大切で、それによっては防げることもあるなと思った。」「暴力は手を出すことだけじゃなくて、言葉でも人を傷つけてしまうから。これからは、もっと気をつけていきたいなと思った。」などの記述があった (Table 6)。

③「相談」を中心に

「相談」を中心に、「友だち」「聞く」「話」「感じる」「対応」の6語で構成されていた。上記と同じく「KH coder」の「KWIC コンコーダンス」を用い、分析対象ファイル内で抽出度がどのように用いられているか確認してみると、「もし友だちに相談された時は、「あなたは悪くない。」と伝えたいです。」「相談される側も相手を理解し

てちゃんと話を聞いて対応してあげることが必要なだと感じました。」などの記述があった (Table 7)。

④「受ける」を中心に

「受ける」を中心に、「女性」、「男性」、「多い」、「本当に」の5語で構成されていた。上記と同じく「KH coder」の「KWIC コンコーダンス」を用い、分析対象ファイル内で抽出度がどのように用いられているか確認してみると、「交際相手から被害を受けた事のある人の割合が、女性5人に1人、男性10人に1人がデートDVを受けていると知って、結構、多いと思った。」などの記述があった (Table 8)。

⑤「授業」を中心に

「授業」を中心に、「今日」、「ありがとう」、「教える」、「今回」、「たくさん」の6語で構成されていた。上記と同じく「KH coder」の「KWIC コンコーダンス」を用い、分析対象ファイル内で抽出度がどのように用いられているか確認してみると、「今回の授業でいろいろなことをたくさん学んだ。」「今回は、普段の勉強で教われないたくさんのことを学べてよかったです。」「今日、色々教えてくださり、ありがとうございました。」などの記述があった (Table 9)。

⑥「相手」を中心に

「相手」を中心に、「気持ち」、「考える」、「大切」、「行動」の5語で構成されていた。「KH coder」の「KWIC コンコーダンス」(Key Words in Context)を用い、分析対象ファイル内で抽出度がどのように用いられているか確認してみると、「これから相手の気持ちを考えて行動しようと思います。」「相手を思いやる気持ちがすごく大切だなと思いました。」などの記述があった (Table10)。

Table 5：KWIC コンコーダンス結果Ⅰ：「思う」を中心に

-
1. デートDVは聞いたことはあったけど意味は知らなくて、今回の授業で知れてよかったです。
 2. デートDVは全然関係ないことだと思っていたけど、この授業を受けて、案外身近なで起こるものなんだと思った。
 3. デートDVについてよく分かった。「今日の授業でいろいろ自分が分からないことも、いっぱい知れたので、今日はすごく良かったと思いました。
-

Table 6：KWIC コンコーダンス結果Ⅱ：「自分」を中心に

-
1. 自分の気持ちをきちんと伝えることが大切なんだなあと思いました。
 2. やっぱり人の気持ちを考えて、また自分の気持ちを伝えることが、みんなが傷つかない方法なんだと思いました。
 3. まずは相手のことを考えて、言ったり行動しなくてはならなかったり、自分の意見を相手にきちんと伝えることも大事なんだと分かりました。
 4. 今日の授業で、デートDVは自分自身が少し気をつけて、相手に伝えることが大切で、それによっては防げることもあるなと思った。
 5. 暴力は手を出すことだけでなく、言葉でも人を傷つけてしまうから。これからは、もっと気をつけていきたいなと思った。
-

Table 7：KWIC コンコーダンス結果Ⅲ：「相談」を中心に

-
1. もし友だちに相談された時は、「あなたは悪くない。」と伝えたいです。
 2. 相談される側も相手を理解してちゃんと話を聞いて対応してあげることが必要なんだと感じました。
-

Table 8：KWIC コンコーダンス結果Ⅳ：「受ける」を中心に

-
1. 交際相手から被害を受けた事のある人の割合が、女性5人に1人、男性10人に1人がデートDVを受けていると知って、結構、多いと思った。
-

Table 9 : KWIC コンコーダンス結果V : 「授業」を中心に

-
1. 今回の授業でいろいろなことをたくさん学んだ。
-
2. 今回は、普段の勉強で教われないたくさんのことを学べてよかったです。
-
3. 今日、色々教えてくださり、ありがとうございました。
-

Table 10 : KWIC コンコーダンス結果VI : 「相手」を中心に

-
1. これから相手の気持ちを考えて行動しようと思います。
-
2. 相手を思いやる気持ちがすごく大切だなど思いました。
-

4. 考察

1) 事前事後の比較

事前事後のデート DV 理解度アンケートの分析による結果から、中学生に学習効果が、得られたものといえる。しかし「デート DV は、相手を怒らせないように工夫すれば、なくすことができると思う」という質問項目については、学習効果を得ることができなかった。こういった認識は、被害者がもつ「自分が我慢すれば」「自分が悪い」といった、背負うべき範囲を超えた責任を負おうとする傾向(3)と同様の誤った認識を形成している可能性が伺える。その背景には、加害者や我慢を要請する周囲の人、あるいは社会からのメッセージを被害者自身が受け入れてしまうことや、被害者自身が関係の継続を願い、関係を継続させなければという責務を自らに課し、被害者は自らの限界ラインを押し広げていくという(3)。また「DVにつながる考え方」に関する調査(6)では、被害男女は、「暴力を振るわれるのは振るわれる方にも原因がある」と考えている人が、少なからず存在していること、特に男性に、このような考え方の人が多く、「好きな相手なら、暴力を振るわれても許してあげるべきだ」といった男性の暴力に対する甘さが指摘されている。これは男子の方が女子に比べて「デート DV」という言葉や、その内容を知らない割合が高い(8)ことからいえる。

以上のことから、被害者にも、加害者にも、傍観者など周囲の人たち、そして社会においても、誤った認識を浸透させないよう、早い段階からデート DV 防止教育を実施する必要があると考える。暴力に関する社会教育では、男性の参加が少なくなるこ

などを踏まえ、それより早い段階で、予防教育を行うことは、女性だけでなく、男性の認識も得られるというメリットが示されている(5)。その中で、性別に関係なく、互いに尊重し合える関係を築けるようになることや、一人ひとりがデートDV発生の抑制力となるような取り組みが実施されることが求められる。

2) 抽出語の出現数による結果

「思う」の出現回数が出ている点、「デートDV」、「自分」、「授業」、「分かる」が上位であった結果は、今回の授業により、中学生がデートDVについて、自分とじっくりと向き合い、思いを巡らせ、理解を深めたことが窺える。「ありがとう」という言葉が6位であった点については、中学生が授業への関心や意義を実感したことへの表現であるといえ、このメッセージは実施した大学生にとって、貢献感を味わう機会となり、双方に有意義な影響をもたらした結果であるといえる。

その他、20位以内には、「気持ち」、「相談」、「知る」、「考える」、「分かる」、「言う」、「身近」、「大切」など、デートDVを理解する上で重要となるキーワードが挙げられていた。

23位には、「楽しい」(13回)が抽出されており、「大学生の方に来ていただいて楽しかったです。」「重い感じじゃなくて笑いもあったので、聞きやすかったし、楽しかったです。」「分かりやすくて楽しかったです。」という内容が確認された。さらに「大学生」(64位・4回)については、「大学生に教えてもらってよく分かった。」という内容が確認された。これは世代の近い大学生への親しみやすさに加え、実体験についての語りにより、交際することへの恐怖感をあおることなく、このテーマについて、身近に起きる重要なテーマとして受け止められた結果であると思われる。

3) 共起性による結果

共起性による結果から、学習効果として、大きく6つの要素が見出された。

①デートDVを知る良い機会となり、身近な問題として理解を深めたこと、②言葉も暴力になるので、他者を傷つけることがないように気を付けなければならないこと、③友だちの相談には、耳を傾け、対応しなくてはならないこと、④交際相手から被害を受けた事のある人の割合が、女性5人に1人、男性10人に1人という被害件数の多

さに気づき驚いたこと、⑤今回の授業により、普段の勉強で教われたいくさんのことを学べたことへの感謝の念、⑥相手の気持ちを考えて行動することの大切さに気付いたという結果が確認された。以上より、大学生による予防教育は、目的を達成したといえる。つまり、予防教育により中学生は、デートDVという言葉を知り、身近な問題としてデートDVを捉え、互いに尊重し合える関係を築くことの重要性を知り、解決策を得、仲間を大切にサポートする意識をもつことなど、多くの知識を得たことを実感し、大学生への感謝の気持ちを表現した。

5. まとめ

以上より、大学生によるデートDV予防教育についての学習効果は確認された。その一方で、中学生において、背負うべき範囲を超えた責任を負おうとする誤った認識が、既に形成されていることも明らかとなった。重ねて女性より男性の方が、暴力に対する認識が甘いこと、「デートDV」という言葉や、その内容を知らない割合が高いということから、早期の段階から、女性だけでなく、全ての性を対象に、デートDVについての予防教育を浸透させていく必要性が求められる結果となった。また互いに尊重し合い、DVのない対等な交際関係を築くことや、良品相談として仲間をサポートするために、傾聴力やアサーション、共感する心など、コミュニケーション・スキルを育むトレーニングを加えることで、さらに効果が高まると思われる。

そして年齢の近い大学生が、予防教育を実施したことにより、中学生はデートDVへの恐怖感を抱くことなく、身近な問題として捉え、より多くの知識を得ることができた実感した。大学生は、中学生からの感謝の言葉により貢献感を味わい、互いにポジティブな効果を得る機会となった。今後、大学生や同世代のピアによる予防教育を、小学校など早期の段階から積み重ねていくことで、若者たちだけでなく、教育者においてもDVの知識を深める機会となり、交際関係における問題への予防や対策、DV家庭で育つ児童生徒の早期発見、関係機関との連携体制の強化へと繋げることができると考える。その結果、暴力は決して許されるものではないこと、仲間をサポートする意識を一人ひとりもち、DV発生の抑制力なる思いやりのある社会の実現の一助となるだろう。

引用文献・参考文献

- 1) 樋口耕一 『社会調査のための計量テキスト分析 —内容分析の継承と発展を目指して—』ナカニシヤ出版, 2014.
- 2) 越中康治・高田淑子・木下英俊・安藤明伸・高橋潔・田幡憲一・岡正明・石澤公明 「テキストマイニングによる授業評価アンケートの分析 —共起ネットワークによる自由記述の可視化の試み—」 宮城教育大学情報処理センター研究紀要22, 2015, 67-74頁.
- 3) 増井香名子 「DV 被害者は、いかにして暴力関係からの「脱却」を決意するのか「決定的底打ち実感」に至るプロセスと・「生き続けている 自己」 社会福祉学, 第52巻第2号 2011, 94-106頁.
- 4) 内閣府男女共同参画局 男女間における暴力に関する調査 報告書〈概要版〉 2018
- 5) 中田慶子 「デート DV を知っていますか? — 若者たちのデート DV と防止教育について」 助産雑誌61(1), 2007, 54-59頁.
- 6) 須賀朋子 「DV 被害女性と、被害経験のない成人の DV の知識と考え方に関する比較」 日本セーフティプロモーション学会誌10(2), 2017, 31-37頁.
- 7) 高村寿子 『性の自己決定能力を育てるピアカウンセリング』. 日本性教育協会 1999.
- 8) 武田道子・大西和 「高校生のデート DV に対する認識および経験の実態」『日本看護学会 論文集. 地域看護』42, 2012, 151-154頁.
- 9) Thompson, J., "Establishing locus of control among ninth graders: Using peer mentors to reduce student disengagement, absenteeism, and failures", Institute of Education Sciences, 67, 1991. (<https://eric.ed.gov/?id=ED337738>)
- 10) 山口のり子 『デート DV プログラム実施者向けワークブック—相手を尊重する関係を作るために』, 梨の木舎, 横浜市市民価値力推進局, 2003.
- 11) World Health Organization (WHO) "prevalence and health effects of intimate partner violence and non-partner sexual violence", Global and regional estimates of violence against women, 2013. (<https://apps.who.int/iris/handle/10665/85239>)